

郷土作家 渡辺謙二郎と小五郎について 1

－ 作品と資料調査 －

菊池 憲

I はじめに

洋画家・渡辺謙二郎（1900-1943）と弟の彫刻家・渡辺小五郎（1911-1941）は、宮崎県東臼杵郡東海村祝子（現在の延岡市尾崎町）出身の郷土作家である。

渡辺家の長男である謙二郎は、1919（大正 8）年、絵画を学ぶために上京するが、長男の責務もあり、数年後帰郷し家業に従事した。身近な風景などを題材に数多くの油彩や水彩画を描きつつも、孤独な性質から一度も世に発表することなく 42 歳の生涯を終えている。

弟の小五郎は、1930（昭和 5）年東京美術学校（現東京藝術大学）に入学し、彫刻科木彫部を専攻した。同校を卒業した 1935（昭和 10）年の二科展初入選以降、連続入選を果たし、東郷青児、渡辺義知、中村恒夫らに認められるなど将来を期待されていた。しかし、1940（昭和 15）年に肺結核を患い療養のため帰郷、その 3 ヶ月後の 1941（昭和 16）年に 29 歳の若さで亡くなった。この年の二科展には、遺作 5 点が特別展示され、翌年二科会会員に推挙されている。

当館では、謙二郎の作品 5 点、小五郎の作品 5 点を収蔵している。また、1982（昭和 57）年には、当館の前進である宮崎県総合博物館にて「延岡の異才 渡辺謙二郎・小五郎展」（8 月 31 日～ 10 月 24 日）が開催され、謙二郎の油彩画 24 点、小五郎の彫刻 12 点、2 人の画帳や用具等の資料が 36 点展示されている。しかし、2 人について詳しく記されている資料は遺族である渡辺家次男の渡辺修三（詩人）が編集した『鷓鴣集』（昭和 42 年発行）のみであり、2 人の画家・彫刻家としての履歴を詳細に調査した資料がないため、これまで作家としての 2 人がそれぞれどのような生活を送り、どのような思想を持って作品制作に当たったのかを知ることは難しかった。

2016（平成 28）年、遺族から 2 人が残した作品とともに手紙や日記などを含む多くの資料が保管されているという情報が寄せられた。これらをもとに 2 人の詳しい足跡を調査することで、作品制作の背景や人間関係、また、当時の日本美術界の流れや県内の動向等、様々なつながりが見えてくるのではないかと考え、同年 2 月から 2018 年 1 月にかけて、数回に渡りこれらの作品及び資料の調査を行った。

本稿は、この調査をもとに 2 人の現存する全ての作品及び遺族が所有している資料についてまとめたものである。

II 渡辺家について

調査の詳細に入る前に、2 人の作家を生むことになった渡辺家についても簡単に紹介しておく。なお、文中では敬称を略させていただいた。

父の民三郎（1874-1944）は、亮天社（明治 36 年に廃校）に学び、その後現在の早稲田大学の前身である東京専門学校に進学した。しかし途中で病により帰郷し、家業を継ぐことになる。後年は酒造業を廃業して祝子川を見おろす黒岩山の山腹に茅屋を建て、山林経営に転じる。これが後に茶園「黒岩園」となった。民三郎は「社会悪に対する潔癖



図1 徳富蘇峰氏訪問時の写真
（右から2番目が民三郎）

とも云うべき正義感」を持っていたと、修三の随筆「蘆花先生と父」に記されている。また、『鷓鴣集』によれば、徳富蘇峰・蘆花兄弟や評論家の山路愛山らと親交を結び、島崎藤村とも文通していた（図 1）。帰郷後もしばしば上京しては新渡戸稲造に会ったり、画家の神木鷗津に師事して古美術の研究をしたりしていたという。

1946（昭和 21）年に 70 歳で亡くなった母ヨシは、温厚で寛容な心を持ち、気性の激しい民三郎を支える謙虚な性格であったようでこの二人のもとに、三男三女（長女ヒサ、長男謙二郎、次男修三、次女ナオ、三男小五郎、三女ウタ）が生まれた。

Ⅲ 渡辺家に保管されている作品、資料の調査

謙二郎の長男である渡辺良平（2016 年死去）の自宅敷地内に建てられた倉庫は、1997（平成 9）年に改築されたもので、明治時代に営んでいた酒造業の帳簿や看板などと同様に、民三郎が収集したと思われる絵画、書、陶器などの骨董品が数多く保管されている（図 2）。その中でも絵画と書に関しては目録が作成されており、800 点を超える数が記載されている。目録には伊藤若冲の別号である「斗米翁」や「竹田」の名も見られる。



図 2 渡辺家倉庫の様子

この倉庫の中に 2 人の遺品も保管されており、作品や手紙、日記等がまとめられている。

1. 謙二郎の作品と資料

(1) 作品

謙二郎は数多くの作品を描き残しているが、生涯一度も発表することがなかったため、『鷓鴣集』に記載された作品と、前述の「渡辺謙二郎・小五郎展」（宮崎県総合博物館）で作成されたと思われるキャプションが同梱された作品以外は、題不明のものが多く。内容から、ほとんどの作品は身近な風景を描いたものと思われる。今回調査した作品は、油彩画 73 点、水彩画 104 点であり、その内容は文末に付した一覧のとおりである。油彩画は木枠から外されたカンヴァスのみのものが多く、絵具の剥落は少ないものの、全体的にひび割れが見られる。水彩画に関しては紙の状態も良く、絵具の色あせも見られない。

(2) 資料

① 手紙

『鷓鴣集』には、謙二郎が延岡中学校卒業後に太平洋画会で学んだと記されているが、それ以外の動向については詳しく記されていない。しかし、今回の調査で謙二郎が家族とやり取りした葉書や手紙が一部保管されていることが分かり、その中に、謙二郎が熊本県で受験した内容が書かれた 1918（大正 7）年 3～4 月付の 8 枚の葉書（図 3）があった。第五高等学校（現熊本大学）の受験票が別に残されていたことから、受験の際に現地から送ったものと考えられる。葉書には、「一枚一題ツツデ国語ガ三題漢文ガ三題書取一題作文一題デアリマス」などと試験について細かく書かれている。可否については記されたものがなかったが、1919 年（大正 8）年の 9 月から翌年 3 月まで東京美術学校を受験するために上京し、研究所で学んでいるという内容の手紙が見つかったことから、第五高等学校へは進学しなかったと思われる。

また、保管された手紙の中に未開封の封筒があり、遺族の許可のもと内容を確認した

ところ、上京した際に藤島武二（当時川端洋画研究所教授）に渡すよう持たされたと見られる手紙（図 4）であった。藤島が東京美術学校の教授時代に同校に在学していた藤田雅夫により書かれた手紙で、謙二郎への指導を依頼する内容であった。川端画学校洋画科の領収書（図 5）も残されており、謙二郎がこの時期に川端洋画研究所に通っていたことが分かったが、なぜ手紙が藤島の手には渡らなかったのかについては更なる調査が必要である。

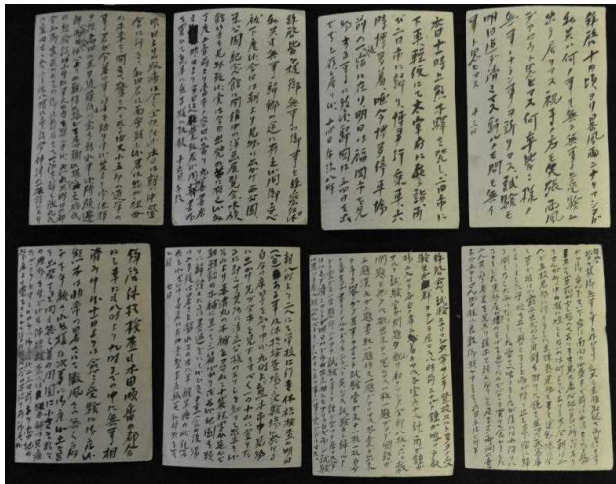


図 3 受験の様子を書き送った葉書

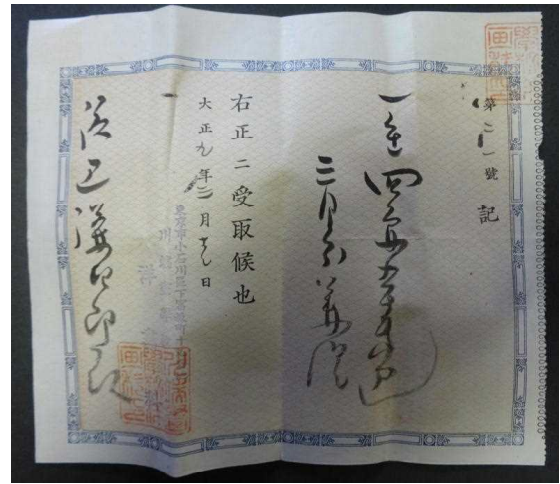


図 5 川端画学校洋画科の領収書

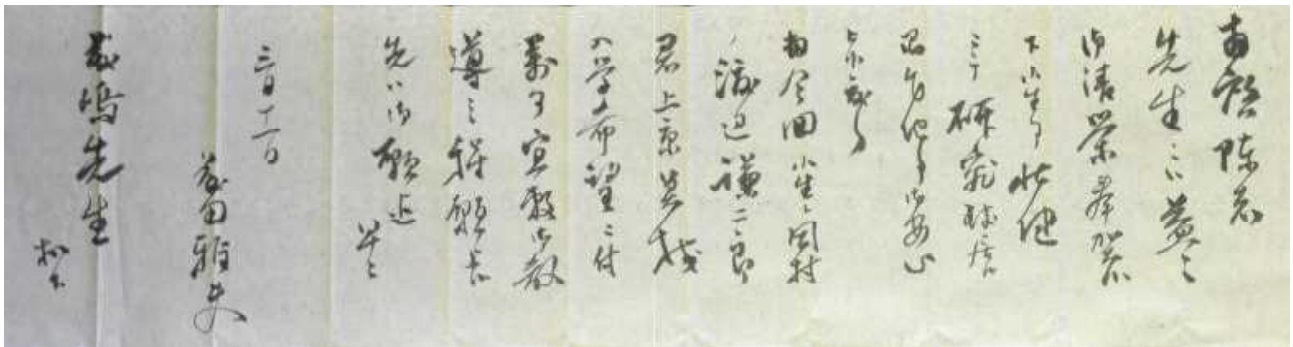


図 4 藤田が藤島武二に宛てた手紙

その他、早稲田高等学院に合格したとの 1921(大正 10) 年 4 月 8 日付の手紙（図 6）も残されていた。このことから、東京美術学校へは進学しなかったと考えられるが、どのような経緯で進路の変更に至ったのかは不明である。今後、これらの手紙から、謙二郎の上京後の生活や、当時の様子について明らかにしていきたい。

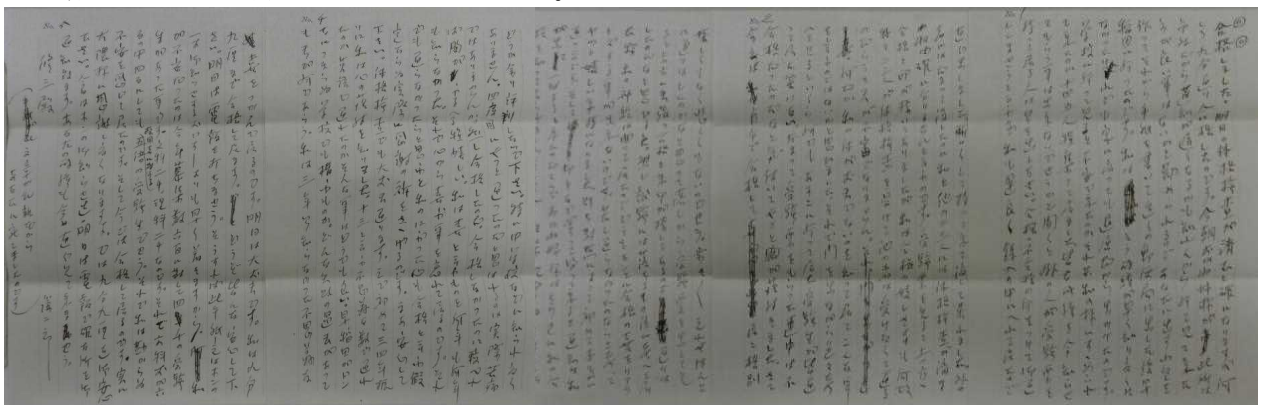


図 6 早稲田高等学院の合格を知らせる手紙

② 日記

謙二郎は日々の出来事を中心に日記を書き残しており、1920（大正 9）年 8 月から 1935（昭和 10）年までの日記帳（図 7）が保管されていた。既製のノートに書かれたものが多いが、中には本人が表紙をデザインし綴じているものもある。その他、綴じ紐が切れているため、どの時期に書かれたかが明確でない日記もあった。

謙二郎は、1920（大正 8）年から生活の拠点を何度か変え、東京と延岡の間を行き来しているが、その正確な時期は不明で、その間の細かな動向も明らかでない。今後これらの日記から、謙二郎の動向や彼を取り巻く当時の状況が見えてくるものと思われる。



図 7 日記帳

③ その他の資料

謙二郎は語学力に優れ、洋書を読んでいたと『鷓鴣集』に記されている。早稲田高等学校時代の成績表が一部保管されており、それを見ても国語や外国語が得意であったことが見てとれる。また、保管されている資料の中に、謙二郎が読んだ本のものであると思われる 33 枚の和・洋書のブックカバー（図 8）があった。これらを残していた理由は不明だが、雑記帳に描かれていたイラストやレタリング等から、謙二郎はデザインにも興味を持っており、その参考資料として保管していたと考えられる。また、次男の修三の詩集『エスタの町』のブックカバーのデザイン画（図 9）3 点が残されていた。

これらの資料については、文末に一覧を付した。



図 8 残されていたブックカバー

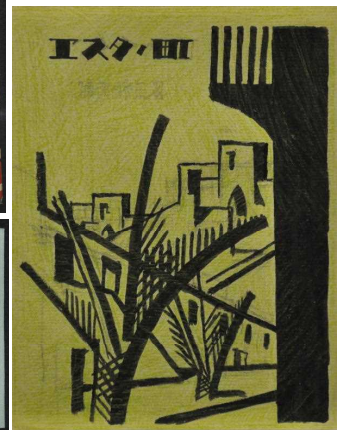


図 9 ブックカバーのデザイン画

2. 小五郎の作品と資料

(1) 作品

『鷓鴣集』に掲載されている作品のほとんどは渡辺家に保管されており、「渡辺謙二郎・小五郎展」（宮崎県総合博物館）の際に梱包されたままの状態であった。石膏を素材とした作品が多く、中には亀裂や剥落が見られるものもある。また、今回木を素材にした作品も多く保管されていることが分かった。これらの作品の内容については、文末に付した一覧のとおりである。『鷓鴣集』に掲載されている作品で、残念ながら所在が分からないものが数点あるが、その中の「蹲った女」「トルソー」については、渡辺家からの情報により、渡辺修三の三男である渡辺信吾（高知県在住）が所有していることが確認できた。その他の所在不明の作品についても、引き続き情報収集をしていきたい。

(2) 資料

① 手紙

東京美術学校に合格し上京した 1930（昭和 5）年から、体を悪くして帰郷する 1940（昭和 15）年までの約 10 年間に、家族や友人とやり取りをした葉書（友人の遺族から遺品として戻されたものを含む）や手紙（図 10）が計 474 通保管されていた。内容は、日常の出来事や生活費の仕送りについて、制作に対する考え等である。また、美術学校での友人のことや東郷青児との出会いについて記されている手紙もあり、小五郎とつながりのあった人物を調査する上で有効な資料である。



図 10 1930（昭和 5）年から 1940（昭和 15）年までの家族、友人との手紙

② 道具と写真

1940（昭和 15）年に結核を患い帰郷した後、本人が延岡に送った道具の一部（図 11）が保管されていた。小五郎が生前最後に住んでいたアトリエの住所が箱に記されているため、延岡での病気療養中も制作を続けようとしたと見られる。また、学生時代の小五郎と友人が撮影された写真（図 12）が保管されていた。場所や一緒に写っている人物については、後に美術界で活躍した人物が含まれている可能性もあり、今後の調査で明らかにしていきたい。



図 11 小五郎が送った道具

図 12 学生時代の写真



右から三人目が小五郎



左が小五郎



後列中央が小五郎



後列左端が小五郎



前列右から三人目が小五郎

③ その他の資料

他に、小五郎が生前手元に持っていたと思われる手帳や、1930～33（昭和5～7）年、35（同9）年、36（同10）年に発行された東京美術学校卒業名簿が残されていた。小五郎の作品が掲載されている『二科画集』や、遺作展示にふれた記事が掲載されている「美術文化新聞（1941年9月21日発行）」（図13）も保管されており、これらは当時の美術界における小五郎の位置付けを示す資料である。

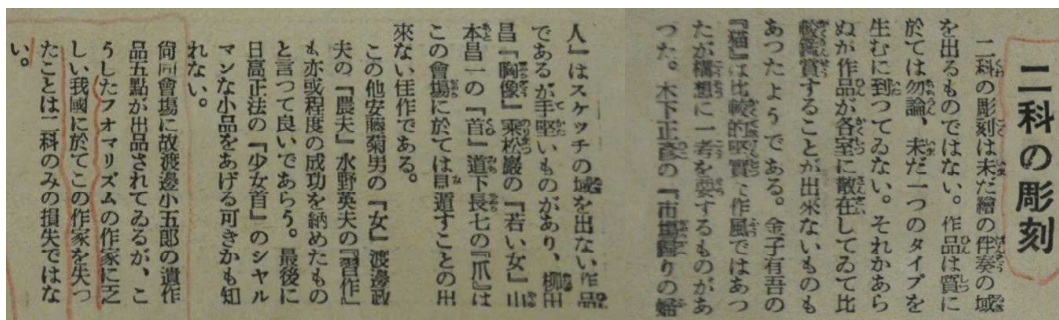
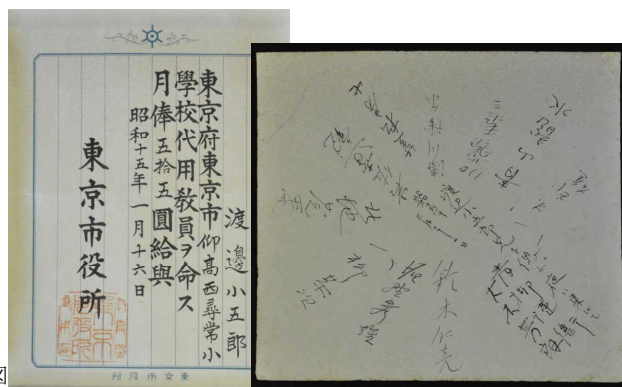


図13 『美術文化新聞』（1941年9月21日発行）に掲載された記事

また、小五郎が療養のため延岡に帰省する約一年前に発行された、小学校代用教員の辞令（図14）があり、彫刻家として活動する傍ら、学校の講師で生計を立てていたことが分かった。

小五郎が亡くなった後、渡辺家には多くのお悔やみの手紙が届けられたが、それらと一緒に、「渡辺小五郎兄を偲ぶ夜に集いて 昭和十六年三月二十二日」と書かれた寄せ書き（図15）も保管されていた。小五郎の死を惜しんだ知人たち12名の名前が書かれており、当時の小五郎の交友関係を知る上で重要な資料になるとと思われる。

これらの資料についても、文末に一覧を付した。



14 辞令






図15 寄せ書き

V まとめ

今回は、渡辺家に現存している作品と、関係資料についての調査を行った。渡辺家のご協力のもと、長期に渡り調査させていただき、残されていたほぼ全ての作品や遺品等を確認することができた。遺族の話によると失われてしまった資料もあるようだが、これまで不明だったことを明らかにできるような資料も数多く現存しており、当時の社会情勢や美術界の流れの中で、2人の作家がどのように生き、制作していたのかを少しずつでも解明していくことができると考える。また、作品以外に鉛筆画やイラスト、雑記帳（落書き帳）なども多く残されており、これらも含め、今後も引き続き調査を進めていきたい。

参考文献

- ・ 渡辺修三編、『鷓鴣集』、1967
- ・ 延岡先賢遺作刊行会、『延岡先賢遺作集』、夕刊ポケット新聞社、1974
- ・ 渡辺修三、「蘆花先生と父」、『新編 谷間の人』、鉦脈社、1997、p.488
- ・ 松田仙峽、『延岡先賢伝』、1956、p.106
- ・ 延岡市史編さん委員会編、『延岡市史 下巻』、延岡市、1983、p.249
- ・ 黒木淳吉、『宮崎文化往来』、鉦脈社、1986、p.206、pp.214-215
- ・ 宮崎県総合博物館、『宮崎県総合博物館年報 No.12(昭和 57 年度)』、1983、p.7
- ・ 宮崎県総合博物館、『宮崎県総合博物館年報 No.18(昭和 63 年度)』、1989、p.34
- ・ 宮崎県総合博物館、『宮崎県総合博物館年報 No.19(平成元年度)』、1990、p.36
- ・ 宮崎県総合博物館、『宮崎県総合博物館研究紀要 第 15 輯(平成元年度)』、1990、pp.27-49

1	2	3	4	5
				



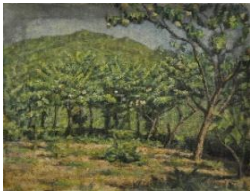


題名:河の見える風景
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:38.0×45.5

題名:河
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:45.5×60.6

題名:山あい
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:21.7×16.0

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:32.5×23.7

題名:家
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:16.2×22.4

6	7	8	9	10
				

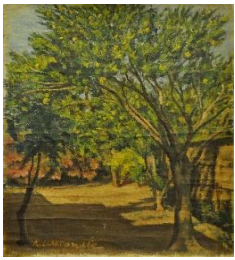




題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:37.8×45.0

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:31.7×40.8

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:37.8×44.7

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:40.2×31.8

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:31.4×40.7

11	12	13	14	15
				




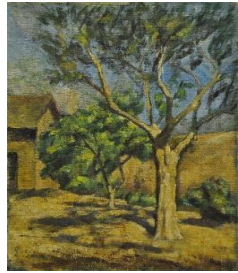

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:44.5×37.6

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:31.2×40.7

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:31.3×40.9

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:37.3×45.3

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:31.5×41.0

16	17	18	19	20
				

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:37.6×45.2

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:31.8×40.8

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:31.5×40.6

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:40.2×31.9

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:40.0×31.3

21	22	23	24	25
				






題名:家 ※山園(鶴鶴集)
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:23.7×33.0

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:16.1×22.1

題名:農家(表)
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:23.9×33.0

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:23.9×33.0

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:23.8×32.7

26	27	28	29	30
				






題名:山(表)
制作年:不明
技法:油彩
素材:板
サイズ:24.0×31.0

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:油彩
素材:板
サイズ:24.0×33.0

題名:岩
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァスに裏打ち
サイズ:31.8×41.0

題名:老樹のある風景
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァスに裏打ち
サイズ:38.0×45.5

題名:はたらく人
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァスに裏打ち
サイズ:38.0×45.5

31	32	33	34	35
				




題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:板
サイズ:31.8×41.0

題名:不明(表)
制作年:不明
技法:油彩
素材:板
サイズ:23.8×30.7

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:油彩
素材:板
サイズ:23.8×32.9

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァスに裏打ち
サイズ:23.4×32.9

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:23.7×32.9

36	37	38	39	40
				



題名:花だん
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:15.8×22.7

題名:山
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:16.0×21.8

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:22.6×15.2

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:15.4×22.1

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:16.1×21.6

41	42	43	44	45
				






題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:22.0×16.1

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:紙
サイズ:16.1×21.3

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:15.5×21.7

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:紙
サイズ:16.0×22.0

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:16.0×22.6

46	47	48	49	50
				






題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:16.0×21.6

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:紙
サイズ:13.0×16.6

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:紙
サイズ:18.3×24.7

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:紙
サイズ:17.8×24.0

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:23.7×32.6

51	52	53	54	55
				

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:23.7×32.6

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:23.7×32.6

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボードの紙
サイズ:23.9×32.7

題名:不明(表)
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:24.0×32.7

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:24.0×32.7

56	57	58	59	60
				






題名:不明(表)
制作年:不明
技法:油彩
素材:板
サイズ:23.9×30.8

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:油彩
素材:板
サイズ:23.9×33.0

題名:不明(表)
制作年:不明
技法:油彩
素材:板
サイズ:23.9×30.0

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:油彩
素材:板
サイズ:23.9×33.0

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:33.0×23.7

61	62	63	64	65
				






題名:不明(表)
制作年:不明
技法:油彩
素材:板
サイズ:30.5×23.9

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:油彩
素材:板
サイズ:23.9×33.0

題名:不明(表)
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:24.1×33.0

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:24.1×33.0

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:24.0×32.8

66	67	68	69	70
				



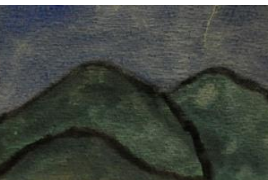


題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:23.7×32.8

題名:不明(表)
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:32.8×23.7

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:23.7×32.8

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:32.8×23.4

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:23.9×32.8

71	72	73	74	75
				

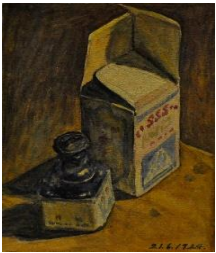




題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:23.9×32.8

題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:キャンバスボード
サイズ:23.7×32.4

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:7.9×11.2

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:8.1×14.3

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:9.2×12.7

76	77	78	79	80
				

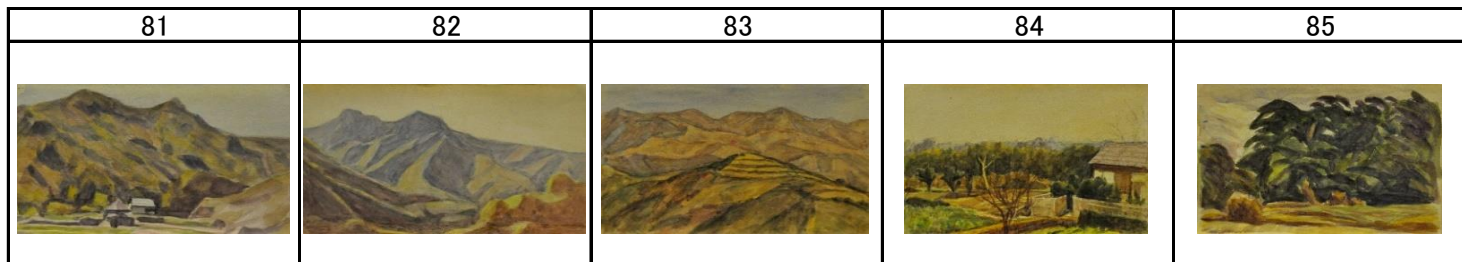
題名:不明
制作年:1924.6.21
技法:水彩
素材:紙
サイズ:13.2×10.3

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:11.3×13.9

題名:不明(表)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:10.4×15.9

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:10.4×15.9

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:13.5×19.0



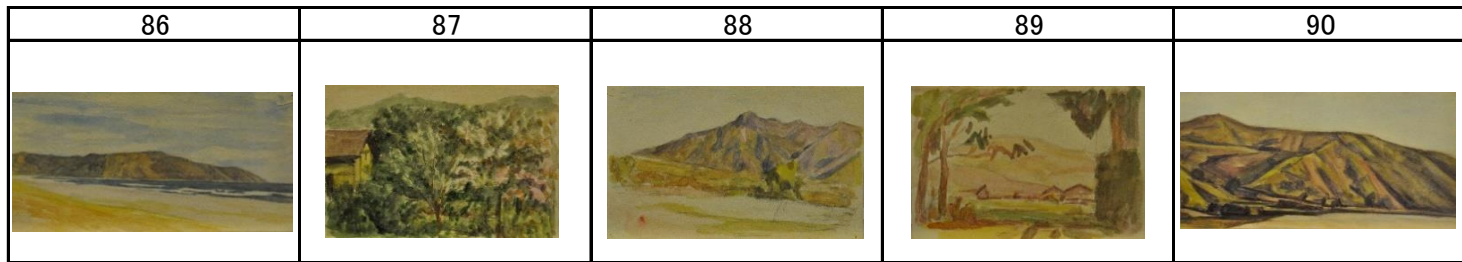
題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:14.0×23.2

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:14.0×24.0

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:11.2×18.5

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:12.6×18.5

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:12.6×18.5



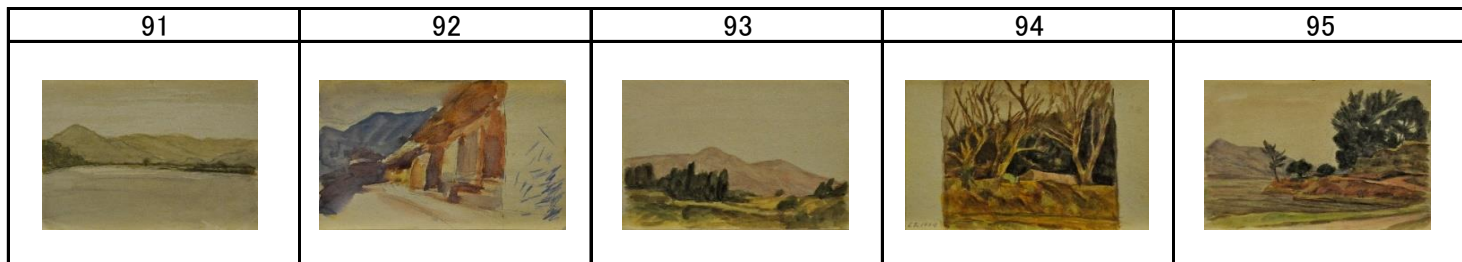
題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:11.4×21.0

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:13.2×18.1

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:12.5×18.5

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:13.4×18.2

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:12.7×23.7



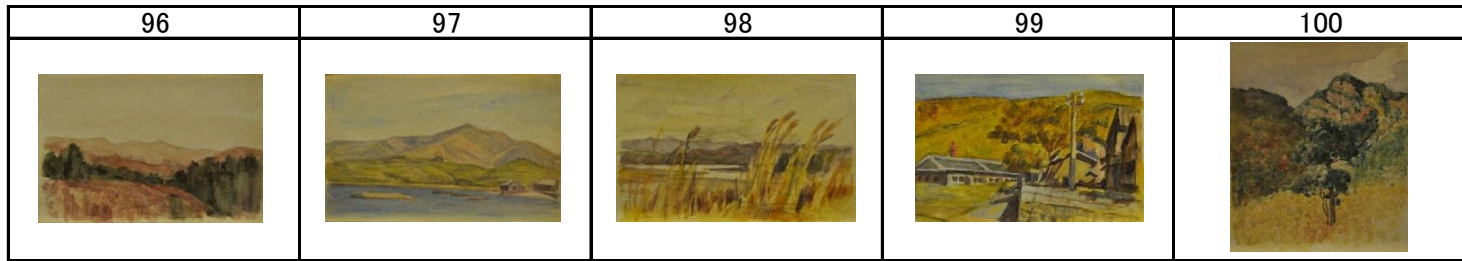
題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:14.9×19.4

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:14.6×16.7

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:13.4×18.0

題名:不明
制作年:1924(大正13)年
技法:水彩
素材:紙
サイズ:12.7×18.4

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:13.2×18.1



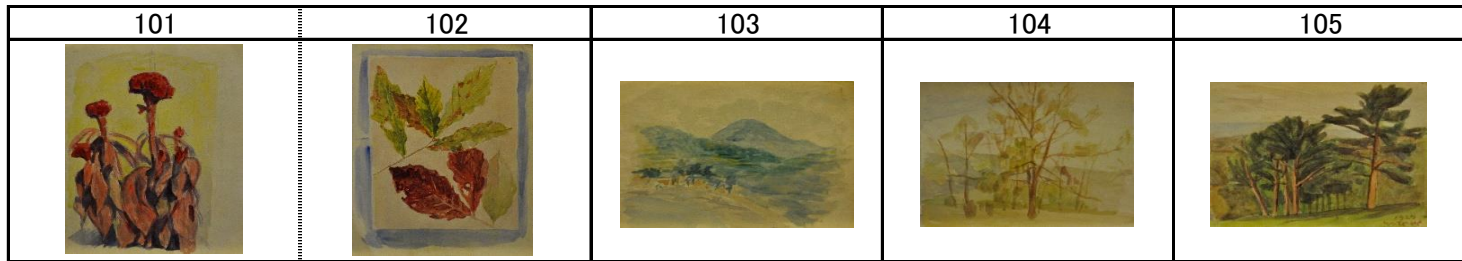
題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:13.4×18.0

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:14.7×20.9

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:12.6×18.4

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:13.9×19.2

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:19.3×14.9








題名:不明(表)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:19.3×14.9

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:19.3×14.9

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:14.7×20.9

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:14.9×19.5

題名:不明
制作年:1927(昭和2)年
技法:水彩
素材:紙
サイズ:14.3×19.4

106	107	108	109	110
				






題名:不明
制作年:1923(大正12)年
技法:水彩
素材:紙
サイズ:14.0×18.6

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:13.9×19.2

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:21.5×15.6

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.6×21.4

題名:不明
制作年:1926(昭和元)年
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.7×21.5

111	112	113	114	115
				






題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.6×21.5

題名:村落
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.7×21.5

題名:村道
制作年:1926(昭和元年)
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.7×21.5

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.7×21.5

題名:山の家
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.7×21.5

116	117	118	119	120
				

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:16.7×22.2

題名:山上風景
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.7×21.5

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.6×21.5

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.8×21.4

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:16.4×21.8

121	122	123	124	125
				






題名:不明(表)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.7×21.4

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.7×21.4

題名:不明
制作年:1926(昭和元)年
技法:水彩
素材:紙
サイズ:11.3×27.8

題名:不明(表)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:24.2×18.0

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:18.0×24.2

126	127	128	129	130
				

題名:不明
制作年:1924(大正13)年
技法:水彩
素材:紙
サイズ:17.1×20.0






題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:17.1×23.5

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:22.2×17.5

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:18.5×24.6

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:20.0×27.6

<p>131</p> 	<p>132</p> 	<p>133</p> 	<p>134</p> 	<p>135</p> 
<p>題名:不明(表) 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:19.1×29.3</p>	<p>題名:不明(裏) 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:19.1×29.3</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:20.0×29.0</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:24.6×18.5</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:28.3×18.8</p>
<p>136</p> 	<p>137</p> 	<p>138</p> 	<p>139</p> 	<p>140</p> 
<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:17.2×25.6</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:16.6×26.7</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:16.6×24.8</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:17.7×26.7</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:18.1×27.3</p>
<p>141</p> 	<p>142</p> 	<p>143</p> 	<p>144</p> 	<p>145</p> 
<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:18.3×27.4</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:16.6×24.9</p>	<p>題名:不明 制作年:1924(大正13)年 技法:水彩 素材:紙 サイズ:16.0×16.8</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:15.7×23.2</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:16.0×24.3</p>
<p>146</p> 	<p>147</p> 	<p>148</p> 	<p>149</p> 	<p>150</p> 
<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:15.5×25.2</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:16.6×24.3</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:18.5×24.4</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:15.9×24.2</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:16.6×24.0</p>
<p>151</p> 	<p>152</p> 	<p>153</p> 	<p>154</p> 	<p>155</p> 
<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:16.0×24.3</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:24.2×18.0</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:17.6×22.6</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:19.2×24.1</p>	<p>題名:不明 制作年:不明 技法:水彩 素材:紙 サイズ:17.8×23.2</p>

156	157	158	159	160
				

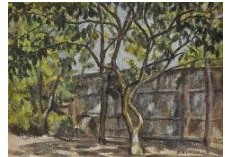

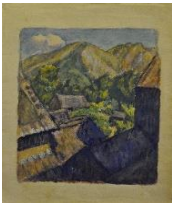


題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:22.7×28.7

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:24.3×28.7

題名:不明
制作年:1927(昭和2)年
技法:水彩
素材:紙
サイズ:23.4×30.2

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:22.9×28.0

題名:不明
制作年:1929(昭和4)年
技法:水彩
素材:紙
サイズ:23.9×30.4

161	162	163	164	165
				

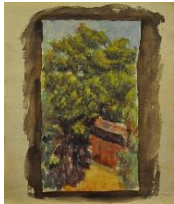




題名:裏庭
制作年:1924(大正13)年
技法:水彩
素材:紙
サイズ:22.2×27.5

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:23.7×31.2

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:31.2×23.7

題名:不明(表)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:32.6×24.1

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:24.1×32.6

166	167	168	169	170
				






題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:31.3×23.9

題名:不明(表)
制作年:1928(昭和3)年
技法:水彩
素材:紙
サイズ:18.6×28.1

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:18.6×28.1

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:23.9×31.2

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:23.4×30.2

171	172	173	174	175
				



題名:不明
制作年:1924(大正13)年
技法:水彩
素材:紙
サイズ:23.9×31.4

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:23.4×30.2

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:23.6×30.9

題名:不明(表)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:19.8×28.6

題名:不明(裏)
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:28.6×19.8

176	177
	

題名:不明
制作年:不明
技法:水彩
素材:紙
サイズ:15.5×24.0
※渡辺家(玄関)に飾られている作品






題名:不明
制作年:不明
技法:油彩
素材:カンヴァス
サイズ:14.5×21.5
※渡辺家(2F)に飾られている作品

渡辺謙二郎関係の資料一覧

No	内 容	備 考
1	知人から謙二郎宛の葉書(2通)	(差出人:東郷青児)※年賀状 (差出人:不明)※暑中見舞い
2	家族からの謙二郎宛の葉書、手紙(154通)	大正7年7月(1通) 大正8年3月(4通)、9月(3通)、10月(15通)、11月(13通)、12月(17通) 大正9年1月(21通)、2月(16通)、3月(12通)、4月(2通) 大正10年3月(1通) 大正11年3月(3通)、11月(2通) 大正13年10月(1通)、11月(4通)、12月(7通) 大正14年1月(6通)、2月(2通)、3月(5通)、4月(4通) 昭和2年6月(4通) 昭和15年3月(1通)、9月(5通) 消印不明(5通)
3	謙二郎から家族宛の葉書、手紙(161通)	大正6年(6通) 大正7年(8通) 大正8年3月(4通)、9月(7通)、10月(15通)、11月(9通)、12月(21通) 大正9年1月(17通)、2月(10通)、3月(6通) 大正10年3月(2通)、4月(21通)、5月(14通)、6月(8通)、7月(4通)、9月(1通)、10月(2通)、11月(1通) 大正11年1月(2通)、3月(2通)、11月(1通)
4	「楽書帳」(54冊)	昭和1年(2冊) 昭和2年(3冊) 昭和3年(5冊) 昭和4年(2冊) 昭和5年(4冊) 昭和6年(8冊) 昭和7年(6冊) 昭和8年(5冊) 昭和9年(4冊) 昭和10年(2冊) 昭和11年(6冊) 昭和12年(2冊) 昭和13年(1冊) 昭和14年(1冊) 昭和15年(1冊) 昭和16年(1冊) 制作年不明(1冊)
5	日記帳(13冊、1束)	大正9年8月27日～大正10年3月24日(1冊) 大正15年～昭和元年(1冊) 昭和2年(1冊) 昭和3年(1冊) 昭和4年(1冊) 昭和5年(1冊) 昭和6年(1冊) 昭和7年(1冊) 昭和8年(1冊) 昭和9年(1冊) 昭和10年(1冊) 制作年不明(2冊)、1束
6	写真(69枚)	謙二郎、修三、風景、人物(不明)が写ったもの
7	「広告画、カット、参考資料入り」	「1924.4.4」と表記
8	スケッチ9枚(風景7、人物2)	制作年不明、紙、鉛筆、(サイズ:21.5×17.0cm)
9	スケッチ13枚(風景10、植物3)	制作年不明、紙、ペン、鉛筆、(サイズ:18.0×14.0cm)
10	スケッチ11枚(風景7、植物2、人物1、静物1)	制作年不明、紙、鉛筆、(サイズ:27.5×18.3cm)
11	スケッチ7枚(風景5、植物2)	制作年不明、紙、鉛筆、(サイズ:31.0×24.0cm)

No	内 容	備 考
12	スケッチ8枚(植物8)	制作年不明、紙、鉛筆、(サイズ:31.0×24.0cm)
13	スケッチ3枚(風景1、植物1、人物1) 詩画2枚	制作年不明、紙、鉛筆、(サイズ:31.0×24.0cm)
14	スケッチ3枚(風景)	制作年不明、紙、色鉛筆、(サイズ:28.5×19.5cm)
15	スケッチ2枚(植物)	制作年不明、紙、鉛筆、(サイズ:12.5×18.0cm)
16	スケッチ1枚(人物)	制作年不明、紙、鉛筆、(サイズ:7.0×10.0cm)
17	イラスト等36枚	制作年不明、紙、水彩、ペン
18	楽書き、模写等(164枚)	制作年不明
19	備忘録(1冊)	「T15.8.1」と表記
20	雑記帳(1袋)	「受取類入 昭和八年 秋十月」と表記
21	雑記(1束)	「詩稿」と表記
22	楽描断片(9束)	「大正十三年ノ分」と表記 「大正十五年ノ分」と表記 「昭和二年ノ分」と表記 「昭和三年ノ分」と表記 「昭和四年ノ分」と表記 「昭和五年ノ分」と表記 「自昭和6年始 至昭和10年末」と表記 「昭和十六年ノ分」と表記 「凶案蒐集」と表記
23	身分証明書	「早稲田高等学院一部」証明書(大正10年5月2日発行)
24	汽船賃割引証(3枚)	大正10年7月1日発行(2枚)、大正10年7月2日発行(1枚)
25	学生割引証(1枚)	大正11年7月7日発行
26	出席状況通知	大正10年4月～7月
27	成績表	第1早稲田高等学院 1学期(1枚)、2学期(1枚) ※発行日不明
28	早稲田高等学院からの通知	大正10年10月6日 民三郎宛
29	私立川端画学校規則	発行日不明 ※教授に藤島武二
30	私立川端画学校 洋画科領収書	大正8年3月～大正9年3月
31	藤島武二宛の手紙	※藤田雅夫氏が書き、謙二郎に持たせたと思われる
32	名刺(藤田政夫氏)4枚	吉田健夫氏宛、谷口午二氏宛、権藤種夫氏宛、(名前不明)宛
33	手書きの地図	谷口氏、権藤氏の自宅地図
34	洋画研究所の広告	川端、太平洋、本郷、葵橋洋画科研究所の広告
35	東京美術学校 入学手数料領収書	大正9年3月3日
36	東京美術学校生徒募集	大正8年1月発行
37	第五高等学校 高等学校入学志望者心得	大正7年5月発行
38	第五高等学校 受験者心得	大正7年5月発行
39	第五高等学校 大正七年選抜受験証票	熊第一部 NO.218
40	早稲田高等学校第一部一学年教科書及担任表	片面印刷(2枚)
41	ブックカバー(32枚)	『Lane's Arabian Night's Entertainments』 THOUSAND & ONE NIGHT VOL. I 『Lane's Arabian Night's Entertainments』 THOUSAND & ONE NIGHT VOL. II 『Lane's Arabian Night's Entertainments』 THOUSAND & ONE NIGHT VOL. III 『西洋 哲学史要』 文學博士波多野精一著 大日本圖書株式会社 『苦惱の中を行く』 アレクセイ・トルストイ著 新興露西亞藝術叢書 『苦惱の中を行く(下)』 アレクセイ・トルストイ著 新興露西亞藝術叢書 『MODERN RUSSIAN LITERATURE～Mirsky』

No	内 容	備 考
41	ブックカバー(32枚)	『FLYING OSIP』 INTERNATIONAL PUBLISHERS
		『LES MISERABLES』 BY VICTOR HUGO J.M.DENT & SONS
		『THE POEMS OF ERNEST DOWSON』 The Bodley Head
		『THE VILLAGE』 BY IVAN BUNIN
		『THE SCIENCE OF FAIRY TALES』 BY EDWIN SIDNEY HARTLAND
		『鳥羽僧正』 下店静市 著 アルス美術叢書
		『肉體悪魔』 波達夫 訳
		『THE GREAT GOD BROWN/THE FOUNTAIN/ THE MOON OF THE CARIBBEES/And Six Other Plays of the Sea』 By EUGENE O'NEILL
		『WHITE NIGHTS』By FYODOR DOSTOEVSKY
		『露語研究』陸軍教授 西海枝静 著 博文館
		『53 ILLUSTRATIONS ROSSETTI』 The Popular of Art
		『ファウスト』 森 林太郎 譯
		『THE IDYLLS OF THEOCRITUS WITH THE ECLOGUES OF VIRGIL』 C.S.CALVERLEY G.BELL & SONG,LTD.
		『OSCAR WILDE'S POEMS』
		『JOHN KEATS'S POEMS』
		『THAIS ANATOLE FRANCE』
		『獵人日記』 イワン・ツルゲーネフ作
		『TALES OF MYSTERY AND IMAGINATION』 BY EDGAR ALLAN POE
		『澤淵・木枝氏 女子 新国語讀本 豫習辭書 卷八』
		『No.54 Gulistan;or,Flower sad I 』THE Scott Library
		『32 ILLUSTRATIONS MILLET』
『五色 ノートブック 五種』		
『四つの戀物語』 フィリップ作 新潮社出版		
『金羊用』ゴーチ工作 エルテル叢書		
『ドイツ小學讀本 第四學年』 世界文庫刊行會		

1	2	3	4	5
				






題名:牛
制作年:1931(昭和6)年
素材:木
サイズ:30.5×39.8×14.0

題名:不明
制作年:1931(昭和6)年
素材:木
サイズ:34.5×31.6×19.0

題名:ガラ政の首
制作年:1932(昭和7)年
素材:石膏
サイズ:36.2×13.0×18.5

題名:K子の首
制作年:1932(昭和7)年
素材:セメント
サイズ:36.3×15.3×17.7

題名:オカッパの首
制作年:1932(昭和7)年
素材:石膏
サイズ:30.2×18.0×18.2

6	7	8	9	10
				

題名:裸婦
制作年:1933(昭和8)年
素材:石膏
サイズ:82.8×24.5×17.7

題名:トルソー
制作年:1936(昭和11)年
素材:石膏
サイズ:30.7×12.0×12.0

題名:トルソー
制作年:1937(昭和12)年
素材:セメント
サイズ:31.5×13.0×14.5

題名:魚(試作)
制作年:1937(昭和12)年
素材:石膏
サイズ:25.1×16.6×29.0

題名:寝た女
制作年:1937(昭和12)年
素材:石膏
サイズ:17.1×41.0×8.7

11	12	13	14	15
				




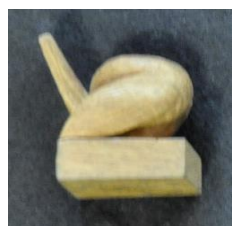

題名:脚を組むトルソー
制作年:1938(昭和13)年
素材:粘土(セメントを混合?)
サイズ:32.4×19.0×17.5

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:14.8×15.2

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:15.0×15.1

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:15.1×15.1

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:15.2×15.2

16	17	18	19	20
				






題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:15.1×15.1

題名:不明
制作年:1930(昭和5)年
素材:木
サイズ:5.1×3.2×4.3

題名:不明
制作年:1930(昭和5)年
素材:木
サイズ:4.2×6.0×3.0

題名:不明
制作年:1930(昭和5)年
素材:木
サイズ:5.2×4.5×3.1

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:9.0×5.5×5.3

21	22	23	24	25
				

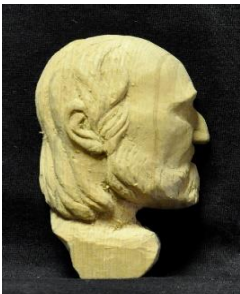




題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:5.0×2.7×6.5

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:3.0×3.0×6.3

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:7.5×2.8×6.8

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:6.5×2.8×14.3

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:9.2×5.5

26	27	28	29	30
				






題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:8.3×5.5

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:5.5×2.5×2.5

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:6.0×2.0×1.5

題名:不明
制作年:不明
素材:木、水彩絵具
サイズ:15.0×5.0

題名:不明
制作年:不明
素材:木、水彩絵具
サイズ:12.0×4.2

31	32	33	34	35
				

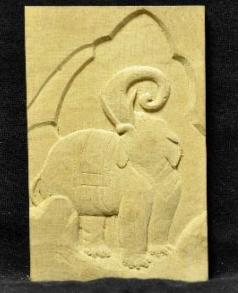




題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:6.3×8.8

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:9.3×4.7

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:8.0×6.3

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:11.0×6.3

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:9.3×4.5

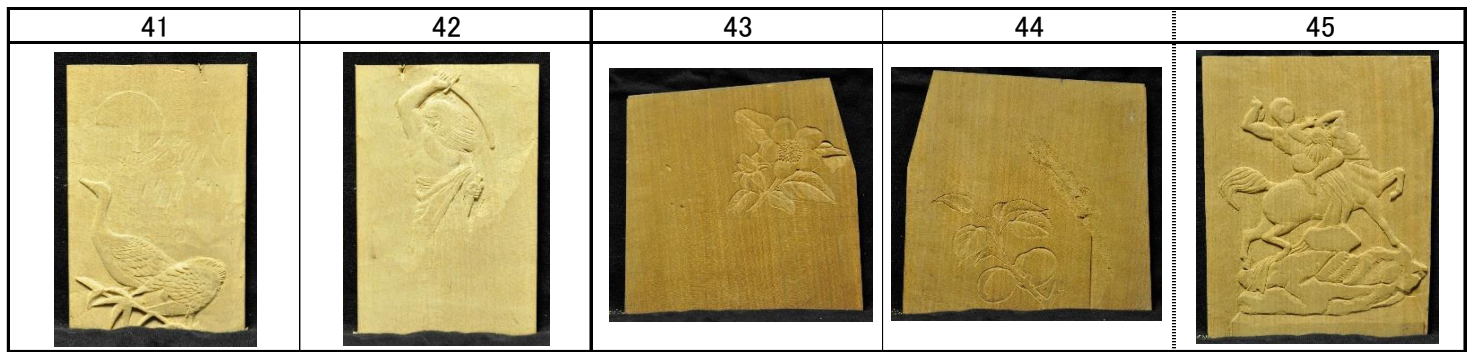
36	37	38	39	40
				

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:11.0×6.3

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:6.6×6.0

題名:不明(表裏)
制作年:不明
素材:木(表裏)
サイズ:6.6×6.0

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:12.3×10.6



題名:不明(表裏)
制作年:不明
素材:木
サイズ:10.1×6.2

題名:不明(表裏)
制作年:不明
素材:木
サイズ:14.5×13.3

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:14.5×10.8



題名:不明(表裏)
制作年:不明
素材:木、水彩絵具
サイズ:14.5×13.3

題名:不明
制作年:不明
素材:木
サイズ:22.5×14.2

題名:不明(表裏)
制作年:不明
素材:木
サイズ:14.3×8.9



題名:不明(表裏)
制作年:不明
素材:木
サイズ:14.5×8.5

渡辺信吾氏宅で調査した作品



題名:トルソー
制作年:1935(昭和10)年
素材:石膏
サイズ:50.0×23.5×16.5

題名:蹲った女
制作年:1937(昭和12)年
素材:石膏
サイズ:54.0×40.0×45.0

渡辺小五郎関係の資料一覧

No	内 容	備 考
1	小五郎が加藤泰三氏に送った葉書、手紙(27通)	手紙(9通)、葉書(18通) ※大阪透氏より渡辺家に送られている(平成2年12月6日)
2	家族から小五郎宛のへ手紙(72通)	昭和15年1月(4通)、2月(3通)、3月(2通)、4月(4通)、5月(1通)、6月(4通)、7月(2通)、8月(4通)、9月(2通)、10月(5通) 昭和6年1月(4通)、2月(2通)、4月(2通)、5月(5通)、6月(3通)、9月(2通)、10月(1通)、11月(5通)、12月(1通) 昭和7年1月(1通)、2月(2通)、3月(2通)、5月(2通)、6月(1通)、10月(1通)、11月(4通)
3	小五郎から家族宛への葉書、手紙(305通)	昭和5年4月(1通)、5月(2通)、6月(2通)、10月(1通) 昭和6年1月(2通)、4月(1通)、5月(1通)、6月(1通)、9月(2通)、10月(6通)、11月(4通)、12月(2通) 昭和7年1月(6通)、2月(1通)、4月(2通)、5月(3通)、6月(3通)、7月(1通)、9月(1通)、10月(4通)、11月(5通)、12月(7通) 昭和8年1月(4通)、2月(3通)、4月(5通)、5月(4通)、6月(4通)、7月(4通)、8月(3通)、9月(2通)、10月(4通)、11月(4通)、12月(2通) 昭和9年1月(3通)、2月(1通)、3月(3通)、4月(3通)、5月(1通)、6月(3通)、8月(3通)、9月(2通)、10月(4通)、11月(3通)、12月(5通) 昭和10年1月(4通)、2月(3通)、3月(5通)、4月(2通)、8月(4通)、9月(6通)、10月(6通)、11月(3通)、12月(3通) 昭和11年1月(2通)、2月(2通)、3月(2通)、4月(1通)、5月(1通)、6月(2通)、7月(5通)、8月(4通)、9月(4通)、10月(4通)、11月(3通)、12月(2通) 昭和12年1月(1通)、4月(2通)、5月(3通)、6月(2通)、7月(2通)、8月(5通)、9月(3通)、10月(2通)、11月(3通)、12月(2通) 昭和13年1月(3通)、2月(2通)、3月(2通)、4月(5通)、5月(5通)、6月(4通)、7月(4通)、8月(7通)、9月(6通)、10月(3通)、11月(2通)、12月(1通) 昭和14年11月(3通)、12月(5通) 日付不明(1通)
4	知人から小五郎宛への葉書、手紙、祝電(70通)	電報(差出人: 中村恒夫)昭和15年12月28日 喪中葉書(差出人: 東郷青児)昭和16年3月5日 ※東郷青児の母親死去 給与明細(差出人: 東京市仰高西小学校) 昭和16年2月26日 展覧会のお知らせ(差出人: 青樹社) 昭和?年11月29日 展覧会のお知らせ(差出人: 白木屋) 昭和14年1月10日 通知(差出人: 二科展図録刊行会) 昭和14年8月31日 展覧会のお知らせ(差出人: 九室會)昭和14年5月6日 (差出人: ルテス商会パピエ・ト・アール販売部) 消印不明 展覧会のお知らせ(差出人: 童林社) 昭和14年6月7日 同窓会のお知らせ(差出人: 不明) 昭和14年5月13日 手紙(6通)、葉書(43通)、祝電(11通)
5	渡辺義知から修三宛に送られた手紙(1通)	小五郎の遺作特別陳列について
6	写真(37枚)	学生時代の写真(14枚)、その他(23枚)
7	「渡辺小五郎兄を偲ぶ夜に集ひて」色紙	昭和十六年三月二十二日 青柳謹衛、大木芳朗、鈴木仁亮、堀野秀雄、八柳恭次、北地莞爾、岩佐達藏、笠松房七、不明、加藤泰三、青山龍水、八木武雄
8	作品プロマイド(4枚)	「立女」、「膝をつくトルソー」、「鳩と女」、「やすんだ女」
9	二科展彫刻家協會 GUNZO	1937年号 ※渡辺小五郎の執筆あり
10	名刺(80枚)	名前のみ(43枚)、住所入り(37枚)
11	クロッキー(3点)	制作年不明、紙、鉛筆(「すわった女」、「やすんだ女」、「不明」)
12	スケッチブック(1冊)	
13	クロッキー帳(5冊)	
14	クロッキー(172枚)	
15	「NOTE BOOK」(1冊)	雑記帳のようなもの

No	内 容	備 考
16	「人間苦」(1冊)	雑記帳のようなもの
17	「英作文」(1冊)	雑記帳のようなもの
18	書写(12枚)	「受食五観」などを書写している
19	模写(11枚)	中国絵画を模写したもの
20	書(20枚)	半紙に書写したもの
21	彫刻道具(1箱)	小五郎(東京板橋区中新井町三丁目一九三六)から延岡に送られたもの
22	絵皿(8枚)	
23	東京美術学校からの手紙(2通)	昭和5年1月7日(1通)、消印不明(1通)
24	学生参考業書 ハンドブック 植物学	
25	唄の本(3冊)	『カルメンの唄』、『沈鐘の唄』、『別れの唄』
26	アサヒグラフ(3冊)	「第25、11号」昭和10年9月11日発行 ※「立女」掲載 「第27、11号」昭和11年9月9日 ※「浴み」掲載(2冊)
27	二科画集(5冊)	22号 週刊朝日臨時増刊 ※「立女」掲載 24号 週刊朝日臨時増刊 ※「膝をつく女のトルソー」掲載 (2冊) 28号 「やすんだ女」掲載 52号
28	二科展図録(4冊)	22 ※「立女」掲載 23 ※「女のトルソー」掲載 24 ※「膝をつく女のトルソー」掲載 25 ※「鳩と女」掲載
29	24 二科展彫刻図録(3冊)	「膝をつく女のトルソー」掲載
30	『令女界』宝文館	第14巻11号 昭和10年11月1日発行 (※表紙に東郷青児の作品掲載)
31	日本美術新報(4冊)	昭和14年9月13日発行 昭和14年9月16日発行 昭和14年9月20日発行 昭和14年9月23日発行
32	「小品版画集」1932 平川清蔵作	「贈呈 渡辺小五郎様」と表記
33	週刊延岡	昭和40年8月29日発行 ※小五郎のことを掲載
34	新聞切り抜き	「新井女史二科會友に推さる」に小五郎のことを掲載(発行日不明)
35	宮崎懸立延岡中學校同窓會 會員名簿	昭和22年1月発行
36	風景スケッチ	スケッチブック、鉛筆、「15.5.2 kogoro」のサインあり
37	スケッチ(5枚)	制作年:1923年、紙、色鉛筆 制作年:1924年、紙、色鉛筆 制作年不明、紙、色鉛筆(3枚)
38	日記帳(1冊)	日付不明
39	直筆原稿(3種類)	「銀りよ草」、「虫売り」、「太陽を生む者」
40	東京美術學校「卒業生姓名卒業製作目録」	昭和10年3月25日
41	東京美術學校卒業生名簿(3冊)	昭和5年12月 昭和6年12月 昭和7年12月
42	會員名簿 東京美術學校校友會(2冊)	昭和9年12月 昭和10年12月
43	東海尋常高等小學校卒業證書	大正13年3月25日
44	履歷書(3枚)	渡辺小五郎(2枚)、堀野秀雄(1枚)

No	内 容	備 考
45	證（東京美術学校）	「昭和五年度學校教練ニ皆出席シ其成績優良ナルヲ證ス」 昭和六年三月二十四日 東京美術學校配屬將校 陸軍歩兵少佐石川吉郎
46	教員免許状(師範學校中學校高等女學校教員無試験 検定合格者)	「手工 右教員免許令第三條ニ依リ頭書學科ノ教員タルコトヲ免許ス」 昭和十年五月一日発行 文部省 む第八六二八七號
47	辞令	「東京府東京市仰高西尋常小學校代用教員ヲ命ス 月俸五拾五圓給與」 昭和十五年一月十六日交付 東京市役所
48	感謝状(豊島区教育研究会)	「豊島區教育研究會 皇紀二千六百年奉祝記念研究發表會開催ニ當リ貴下 ハ優秀ナル研究物ヲ出品セラレ本區教育振興ニ寄與セラレタル功績洵ニ顯 著ナリ仍テ茲ニ記念品ヲ贈呈シ感謝ノ意ヲ表ス」昭和十五年三月一日 東京 市豊島區教育研究會理事長 會美尚之助
49	『GUNZO I 』1937	二科彫刻家協會発行 ※小五郎のコメント掲載
50	美術文化新聞	昭和16年9月21日発行
51	第七回国風彫塑会展覧会目録	大木芳朗氏の作品掲載
52	千葉県立高等園芸学校一覽	昭和4年発行
53	「二科二十五周年記念」手帳	昭和13年9月発行
54	日本美術院再興第二十八回展覧会陳列品目録	加藤泰三氏の作品掲載
55	民三郎宛の手紙、電報	(差出人:加藤泰三) 昭和16年3月5日 (差出人:大木芳郎) 昭和16年3月5日 (差出人:羽山修三) 昭和16年3月20日 (差出人:上田 暁) 昭和16年3月5日 (差出人:阪神彫刻家協會) 昭和16年3月?日 (差出人:東京市仰高西小學校保護者會助賛會) 昭和16年3月20日 (差出人:東京市仰高西国民學校長) 昭和16年5月30日 (差出人:東京市仰高西国民學校長) 昭和16年5月31日 (差出人:東京市仰高西国民小學校長) 昭和16年4月17日 (差出人:小林タマ) 昭和16年3月6日 (差出人:大谷達夫) 昭和16年3月9日 (差出人:和田平次郎) 消印不明 (差出人:小林秀一郎) 昭和16年3月12日 (差出人:東郷青児) 消印不明 (差出人:東京市仰高西国民學校) 昭和16年9月3日 (差出人:東京市仰高西国民學校職員一同) 昭和16年3月4日 ※弔電 (差出人:東京市仰高西国民學校長) 昭和16年3月4日 ※弔電 (差出人:橋本良雄) 昭和16年3月16日 (差出人:甲斐タダ) 昭和16年3月6日 (差出人不明:満州) 消印不明 (差出人:鳥海諒一) 昭和16年5月17日 (差出人不明:横浜) 昭和16年3月7日 (差出人:堀野秀雄) 昭和16年3月30日 (差出人:新井ふみ子) 消印不明 ※葉書
56	書籍	『芭蕉俳句集』岩波文庫 『ノア・ノア』岩波文庫 『平家物語』岩波文庫 『桑の実』岩波文庫 『茶の本』岩波文庫 『千鳥』岩波文庫 『般若心經講話』大洞良運著 『植物の形態』アルス出版 『葉隠全集上』大木陽堂譯 『サンド 少女マリィ』 『原色 高山植物』 洋書(2冊) 『昆虫記』 『日本植物圖鑑』 牧野富太郎 著 北隆館刊行 文検受験用『植物學研究者のために』 鈴木忠康 著 私の手工教育 窯邊雜記 『植物研究雜誌』(32冊) 『偉人の少年時代』 『日本歴史書譚』

郷土作家 渡辺謙二郎と小五郎について 2 —書簡や日記等の調査から—

菊池 憲

I はじめに

前稿「郷土作家 渡辺謙二郎と小五郎について 1」では、2人の現存する全ての作品及び遺族が所有している資料について、調査の結果をまとめた。その後、2人がどのような生活を送り、制作していたのかを明らかにするため、2人の書簡や日記等について更に詳細な調査を行った。

前稿で述べたように、渡辺家長男である謙二郎は、1919（大正 8）年に上京して川端洋画研究所で絵画を学び、1921（大正 10）年に早稲田大学付属早稲田高等学院に入学するが、長男の責務もあり、数年後帰郷し家業に従事した。身近な風景などを題材に数多くの油彩や水彩画を描くが、一度も世に発表することなく 42 歳の生涯を終えた。



右から謙二郎、小五郎

弟の小五郎は、1930（昭和 5）年東京美術学校（現東京藝術大学）に入学して彫刻を学び、同校を卒業した 1935（昭和 10）年から二科展に連続入選を果たした。東郷青児（1897-1978）らに認められるなど将来を期待されるも、1940（昭和 15）年に療養のため帰郷、その後 29 歳の若さで他界した。

本稿では、前稿でまとめた資料の中からいくつかを更に詳細に調査することにより、新たに明らかになった 2 人の足跡について述べる。なお、手紙や日記等の引用については旧字から新字に改めて記した。

II 謙二郎の足跡

謙二郎は、1918（大正 7）年に延岡中学校（現延岡高等学校）卒業後、1921（大正 10）年までに熊本の第五高等学校（現熊本大学）、東京美術学校、旧制早稲田大学付属早稲田高等学院を受験している。

以下、謙二郎が家族に送った手紙や日記の記述から明らかになった 1918（大正 7）年から 1940（昭和 15 年）年頃までの足跡をたどる。

1. 熊本第五高等学校受験

謙二郎は、延岡中学校卒業後、1918（大正 7）年に第五高等学校を受験した。当時の五高は、帝国大学（現東京大学）へ進学するための予備教育が主体となっており、後に多くの政治家や官僚、教育家等を輩出している。

謙二郎が五高を受験した際に家族に宛てた葉書には、試験の様子や一日目を終えた安堵感、翌日の試験への不安が記されている（図 1）。3 年後、早稲田高等学院に合格したときの手紙に「三年間の不安な生活の後に始めて安住の地を見出したる喜は何とも言ひ様のなきもの」と書かれていることから、五高には合格できなかったと思われる。

絵を得意とした謙二郎が同校を受験したことに関しては、本人の意志だったのか、あるいは

は社会的に高い地位をめざして欲しいと願った父の意向が強かったのかは不明である。しかし、翌年から東京美術学校を受験していることから、謙二郎に画家を志したい気持ちがあったことは明白である。

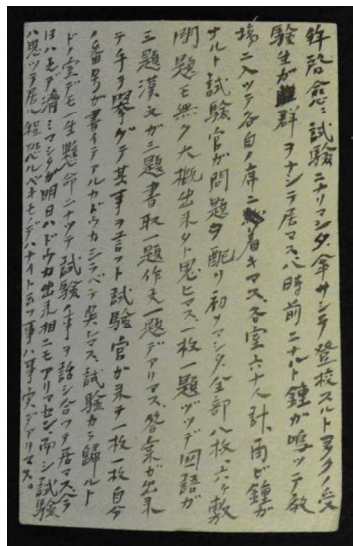


図1 謙二郎が家族に宛てた葉書

拝啓愈ニ試験ニナリマシタ。傘サシテ登校スルト多クノ受験生ガ群ヲナシテ居マス。八時前ニナルト鐘ガ鳴ツテ教場ニ入ツテ各自ノ席ニ着キマス。各室六十人計。再ビ鐘ガナルト試験官ガ問題ヲ配リ初メマシタ。全部八枚、六ヶ敷問題モ無ク大概出来タト思ヒマス。一枚一題ツツデ国語ガ三題漢文ガ三題書取一題作文一題デアリマス。答案ガ出来テ手ヲ挙ゲテ其事ヲ言フト試験官ガ来テ一枚一枚自分ノ番号ガ書イテアルカドウカシラベテ呉レマス。試験カラ帰ルトドノ室デモ一懸命ニナツテ試験ノ事ヲ話シ合ツテ居マス。今日ハ之デ済ミマシタガ明日ハドウカ出来相ニモアリマセン。而シ試験ハ思ツテ居ル程恐ルベキモノデハナイト云フ事ハ事実デアリマス。

2. 東京美術学校受験

謙二郎は1919（大正8）年と翌年の2回、東京美術学校を受験した。また受験前に川端洋画研究所に通い、絵画を学んでいた。これらのことは、謙二郎が家族に宛てた1919（大正8）年3月から翌年3月までの手紙と、川端画学校の領収書から明らかになった。1回目の受験は、3月の試験前に数日間川端洋画研究所に通ったが合格できず、9月に再び川端洋画研究所で美術の基礎（デッサン）を学ぶために上京、研究所では1日4時間（午前中のみ）の3日間で1枚の石膏デッサンを仕上げていたと言う。当時の手紙には、研究生の様子も描かれている（図2）。1920（大正9）年1月の手紙には、研究所内で行われた「石膏写生の競技」において、A3（20名中の3位）の評価をもらって「之で大体自分の位置も分つて来ましたから更にヘビーをかけて決勝点たる美校に飛び込もうと思つて居ます。私より上にはたつた二人しか居ないのですから通れない事もなからうと思ひます」と記しており、謙二郎が試験に向けての自信を持ち始めていたことが分かる。



図2 研究生の様子

この頃の手紙や葉書には、午前中の研究所を終えた謙二郎が、午後から書物を読んだり展覧会を見たりして過ごしていた様子がつぶさに書かれている。一例を挙げると、当時2円80銭で購入した『19世紀の佛国絵画史』を読んで絵画の世界の自由さに感じ入り、「日本画壇の流行を追ふ風を看て（中略）冷笑したくなります」と所見を述べている。また別の日には、研究所から帰って上野の水彩画展を見に行つたとし、その感想を書き送っている。

このように、絵画に関する見聞を広めながらデッサンを学び2回目の受験に臨んだ謙二郎であったが、1920（大正9）年3月30日、2回目の受験も失敗したことを家族に伝えている。原因を自らの技術の未熟さゆえとし、半年間では足りず1年間研究所で腕を磨く必要があると考

えた謙二郎は、4月になると「来年モ一度やつて見て通らなかつたら其時はモウ美校は思ひ切つて腕に自信のつくまで研究所でやらうと思ひます」と再度の受験の意志を手紙に記している。しかし、その翌日に書かれた手紙には、「自分の満足する丈描けさへしたら美校に及第しなくつても帝展に入選しなくつてもチツトもかまわんのですけれど。自分の満足さへ得らるれば世間の嘲笑も名誉も取るに足らないと思ひます。絵画は純然たる個性の発表ではありませんか」と、絵を描く本来の意味を自分に言い聞かせるかのように書いている。以後、謙二郎の手紙や日記には、同校を受験したことは記されていない。

3. 早稲田大学付属早稲田高等学院受験と学生時代

謙二郎は、2度目の東京美術学校受験の翌年である1921（大正10）年に、早稲田高等学院（現早稲田大学高等学院）を受験し合格している。試験前の日記に「ドウヤラ画家として立つ力がない様な気がして暗い気分になつて了つた。ドウセ偉くなれぬ位なら社会向の学問をした方が増した。（中略）神経質な僕にとって此んな不安定な生活は堪へられぬ」と記していることから、美術の道を諦めることへの葛藤がうかがえる。また、「早稲田が僕にとって適当な学校の様思はれた」「ブラブラ暮らして了ふ。明日から少し勉強し様、そして来年の四月には早稲田に通らねばならぬ。（中略）僕は不安の著名よりも、安定の無名を選ぶ」とも書き、早稲田へ進学する意志を固めようとしていた。

早稲田高等学院に合格した謙二郎は、勉強のかたわら絵や読書にいそしんだり、展覧会に出かけたりするなど、充実した日々の様子を家族に伝えている。1921（大正10）10月の葉書には、学校が秋期休業の時に春日町の研究所に通つてデッサンを学ぼうと思うと記しており、帝展への意識も匂わせている。しかしその後の手紙によると、1学年3月の試験を腹痛により欠席し、追加試験が実施されないことで落第となった。謙二郎は落ち込み、進級できないのであれば学科変更をしたいと希望したが、それも叶わずそのまま留年することとなる。1924（大正13）年には帰郷しており、その間の日記や手紙が残されていないことから詳しい経緯は不明だが、学院を退学したものと思われる。

4. 帰郷後

1923（大正12）年頃、延岡に帰郷した謙二郎は家業である製茶業に従事するものの、1924（大正13）年に大阪に開設された絵画研究所（信濃橋洋画研究所）に入所に関する要項を申し込んでいたことが当時の日記に記されており、なお絵画に対する思いが強かったことがうかがえる。日記によると、結局大阪に行くことはなく、同年11月頃に上京して東京で学生生活を送っていた修三と数か月間同居、研究所（詳細不明）に通い、1925（大正14）年1月に大平洋画展覧会、3月には春陽会に出品したがどちらも落選している。その後再び帰郷した謙二郎は、延岡で残りの生涯を過ごした。遺族の話によると、謙二郎は体が弱かったため定職に就かず、家業の手伝いをしながら毎日のように絵を描いていたようである。



図3 延岡市内を描いたスケッチ

延岡の自然を愛していた謙二郎は、風景画を多く描いた。水彩画や油彩画だけでなく鉛筆によるスケッチ（図3）も多数残しており、細部まで丁寧に描かれた作風から、謙二郎の実直な人柄が伝わってくるようである。

謙二郎が描き残したものの中には、自身を「倦怠庵主人」と称した戯画（図 4）もある。これは、渡辺家の長男としての自身の現状を皮肉ったものと思われる。100 枚以上にも及ぶこれらのイラスト等も、作品同様人の目に触れることなく現在も保管されている。1941（昭和 16）年に小五郎が亡くなった 2 年後、謙二郎も同じ結核で亡くなった。遺族によると、闘病中は自宅の 1 階の奥の部屋で隔離された生活を送ったようである。



図 4 戯画

Ⅲ 小五郎の足跡

1. 幼少期～延岡中学校時代

『鷓鴣集』によると、1911（明治 44）年 4 月 5 日に生まれた小五郎は、幼少期から植物博士の牧野富太郎の植物研究雑誌を愛読し、植物学者になることを夢みていた。1935（昭和 10）年 9 月 25 日付の延岡新聞附録には、延岡中学校時代の小五郎は無口で恥ずかしがり屋な性格で、授業中自ら発表するようなことはなく、絵が得意で 1927（昭和 2）年から同校の美術教師であった洋画家の有田四郎（1885-1995）の評価も高かったと書かれている。同校卒業後の進路については、1928（昭和 3）年 12 月の第五高等学校の「入学願書心得」が残されており、兄の謙二郎の日記の記載からも、兄と同じく第五高等学校を受験したが、合格できなかったことが分かった。また、資料の中に千葉県立高等園芸学校（現千葉大学園芸学部）の入学案内（昭和 4 年発行）があったことから、小五郎は幼い頃から興味があった植物関係の道も考えていたようだが、実際に受験したことを示す資料はない。



11 歳の小五郎

2. 東京美術学校時代

前掲の延岡新聞附録には、五高不合格となった小五郎が、一年間自宅で絵画の勉強をし、翌年の 1930（昭和 5）年に東京美術学校彫刻科木彫部に進学したとある。東京では初めて見るものが多く、美術展にも頻繁に足を運んでいたようだ。同年 6 月に姉に宛てた手紙には、上野の松坂屋で開催された「郷土会第十五回展」で山川秀峰（1898-1944）の「舞妓」を見てその美しさに絵葉書を購入したことが記されている。また、同年 10 月の手紙から、小五郎は帝国美術院展覧会（帝展）への出品を考えていたことが分かった。



19 歳の小五郎

翌年に書かれた一連の手紙によると、2 学年になると多くの級友たちが学校以外でも制作するためにアトリエを持つようになり、小五郎も制作できる場所を求めていた。しかし金銭的な余裕がなく下宿所を引っ越すこともできなかった小五郎は、当時池袋にあった級友のアトリエを借りて制作することにした。

3 学年になった小五郎は、彫刻の面白さと難しさを一層感じるようになり、教授からは技法

の新しさなどをほめられるものの、自身が求める彫刻ができず苦しんでいると手紙に記している。1932（昭和 7）年に上野で開催された「世界古美術品展」を見てエジプトやアフリカの彫刻を「現今の大家等足もとにも及ばないと思いました。新しい諸作家が自分で発見したような技法は皆づつと（中略）平気でつかつてゐるのです」と感じ、級友の作品に対しては「だれもかれも『いもざいく』みた様な物」を作っていると評するなど、独自の新しい表現を模索していたことが分かる。帝展への出品に意欲を見せていた小五郎だったが、出品する意義さえも考えるようになった。1933（昭和 8）年 7 月の手紙には次のように記されている。

小生の目的として進んでゐる道はおそらく帝展の歩いてゐる道と合しないものだと思ひます。—今までの帝展から見て—。生意気だと思へるかと思ひますが帝展の連中は（大部分が）出来るだけ自然美に近づこうとしてゐるのだと思はれます。然し小生は（又或程の人々もそうだろうと思ひますが）自然から材料をあつめて、自然美より以上の美（美の問題は別として）を製作すべく突進してゐるのです（中略）それが帝展に合つするかどうかは問題ではありません。問題にしてはゐません。唯、其の勉強中の習作その一つを試みに帝展に持つてゐつて見ようと思つてゐるだけなのです。（或は愚かな事かも解りませんが）で入選できなかつたとしてもたいした問題などないと思つてゐてもらいたいものです。

この年から 2 年間、帝展に出品するが落選したことがその後の手紙に記されている。

1933（昭和 8）年、東京美術学校の 1 学年が予科となり 5 年制から 4 年制へと替わつたため、再び 3 学年となつた小五郎は、11 月に級友と練馬のアトリエを借りて新たに制作を始めることを家族に報告している。この後小五郎は、生涯このアトリエで生活することとなる。

4 学年になつた小五郎の一連の手紙によると、級友たちは授業以外でもアトリエで 1～2 か月間モデルを雇い制作を続けていたが、小五郎は同居していた友人が引っ越し家賃の負担が増えたこともあり、モデルを雇い制作することができなかつた。そのため、学校でデッサンしたものをもとにアトリエで制作を続けた。また、できるだけ外食することを控え、帰省の費用まで制作費にまわしながら制作を続けたようだ。

11 月からは卒業制作に取り組み、「裸女」（図 5）と試作の 2 点が当時の卒業制作目録に記載されている。

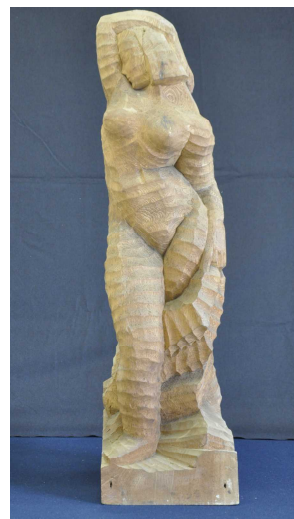


図 5 「裸女」
（内藤記念館蔵）

3. 卒業後

大学卒業後は兵役や就職のため制作をやめる級友もいたが、卒業後の小五郎の手紙には、東京銀座にあった新建築工芸学院（1938 年廃校）で学びたいという希望が書かれており、実際に 1935（昭和 10）年 9 月から 3 か月間、同学院で彫刻に必要な「構成教育」を学んだことが分かった。その後彫刻家としての道を歩み始めた小五郎だが、戦前の混乱期に召集令状が届けば 2 年間は制作できない状況になると語っており、その生活は不安定なものであった。友人の勧めで美術工芸品を作るアルバイトを始めるが、2 か月程で辞めている。その時の手紙に「あんな奴等につかはれてゐては自分の為にならぬ事がわかつて来たのでやめたのであります。自

分の作品を売ってやるのが一番正しい事と思ひます。(中略)やはり人につかわれる人間ではなさそうです」と綴っており、小五郎の制作に対する姿勢が見てとれる。

同年9月、小五郎は二科展に出品し初入選を果たした。当時、小五郎の入選を知った郷里の友人たちから祝福の手紙等を受け取ったことが手紙に記されており、一層制作意欲を高めた小五郎は、以後5年連続入選を果たす。初入選した年の二科の彫刻部門の懇親会は、洋画家の藤田嗣治(1886-1968)らも出席し盛大に行われた。この時、彫刻家の渡辺義知(1889-1963)をはじめ様々な作家と知り合ったことが手紙に記されている。翌年の第23回二科展では、「浴み」と「女のトルソー」の2点が入選したものの、当時の新聞には「細長く様式化されてゐて、もう少しどうかしてくれたら、私は好きになれさうである」との評も掲載された。これを読んだ小五郎は、評論家をうならせるような作品を作りたいと家族に書き送っている。

初入選から3年後の1937(昭和12)年5月の手紙には、東郷青児(1897-1978)が小五郎の作品を購入したいという意志を示したのを機に、2人が出会うこととなった経緯が細かく書かれている。作品の購入費と別に制作費も支払った東郷は、「彫刻の欲しい人は沢山あるが、今までの彫刻家には、買って家におけるような彫刻を造る人がいなかった。君のならばきっと欲しがると居るよ。もう一馬力すればきっとせいこうする」と小五郎の作品を高く評価した。その後も、東郷は小五郎の作品を画商に紹介するなどしていたようだ。

1937(昭和12)年に二科彫刻家協会の委員に選ばれた小五郎は、勉強会にも参加した(図6)。彫刻家として作品を売って生計を立ててはいたが、充分ではなくその頃の生活の様子を、手紙の記載から知ることができる。延岡の実家から毎月のように必要最低限の仕送りをしてもらっていたが、アトリエの家賃、モデル代、材料費や石膏取りの委託等でほとんどがなくなっていた。食事も満足なものではなく、たくあんと梅干しだけで食べる事が多く、28歳の誕生日には、実家から送られたお頭付きの干物と福神漬を混ぜて作った赤飯で一人ささやかに祝った。次第に生活が苦しくなり、制作費まで節約を余儀なくされた小五郎は、友人の勧めで1940(昭和15)年1月より仰高西小学校(現豊島区立仰高小学校)の教師となる(図7)。同校は児童が1,000人以上在籍しており、4~6年生を教えた。

職を得たことで小五郎の生活も少しは楽になったが、同年6月頃から体調の変化を感じるようになった。その4か月後、食後に胃や腸の痛み、下痢が続いたため病院で診てもらったところ、呼吸器と心臓が少し弱っていると診断され一日おきに通院する。しかし体調は良くなり、小五郎は11月に療養のため帰郷することになった。帰郷前の葉書に、自分が出た後のアトリエに入ることに決まった友人に道具と作品を預けることにしたと記していることから、小五郎は再び東京に戻るつもりだったと思われる。しか



20代の小五郎



図6 二科彫刻家協会勉強会
後列右より3番目が小五郎



図7 仰高西小学校時代の
小五郎

しそれはかなわず、姉のナオによる看病の甲斐なく、翌年2月26日、小五郎は29歳の若さでこの世を去った。

小五郎の死を知った級友ら仲間たちは、同年3月22日に生前小五郎が住んでいた練馬のアトリエに集まり、その死を悼み、在りし日の小五郎を偲んだ(図8)。また、1942(昭和17)年に東郷が小五郎の墓参りで延岡を訪れたことが、当時の日向日日新聞(現宮崎日日新聞)に掲載されている(図9)。



図8 アトリエに集まった仲間たち

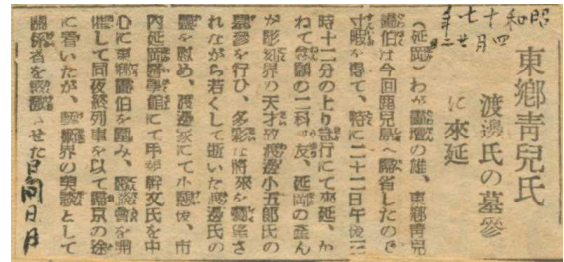


図9 東郷の来延を伝える記事
(日向日日新聞 昭和17年4月22日付)

VI まとめ

今回、2016(平成28)年から始めた調査の中で確認できた手紙や日記を中心に、謙二郎と小五郎の足跡をたどり、2人の日常生活の様子や制作に対する考え方、挫折等が明らかになってきた。手紙には、大正から昭和にかけての社会の動きを記している内容もあり、作家の生き方や制作の背景にある当時の社会情勢も、少しずつではあるが見えてきた。しかし、2人の日記等を読んでいくと、自ら焼却したり戦争により焼失した資料も多くあるようで、調査で見つかった資料の中には、2人との関係性が不明なものもあり、判読できない手紙などもあった。今回の調査で明らかになった内容はまだ一部でしかないため、今後も更なる調査が必要である。また、資料の中には、東郷青児をはじめ多くの作家たちと2人との交流を示すものも含まれており、彼らとの交流の詳細や、本県の美術の流れの中における他の郷土作家とのつながりについても探っていきたい。

なお、謙二郎・小五郎に関する資料の整理とその調査について、当館の中武享子美術館活動推進専門員の協力を得たことを記しておく。

参考文献

- ・ 渡辺修三編、『鶴鶴集』、1967
- ・ 延岡先賢遺作刊行会、『延岡先賢遺作集』、夕刊ポケット新聞社、1974
- ・ 「宮崎の文化 その現状と展望 第三部」、『毎日新聞』、1974.3.12
- ・ 第五高等学校開校五十年記念會、『五鷹五十年史』、第五高等学校（熊本大学）、1939、p.574
- ・ 美術研究所編、『日本美術年鑑 昭和18年（1943年）』、図書刊行会、1996、p.67
- ・ 鹿児島市立美術館、『20世紀回顧・鹿児島と洋画展』、同展実行委員会、2000、p.137
- ・ 「万年筆」、『延岡新聞』附録、1935.9.25
- ・ 磯崎康彦・吉田千鶴子著、桑原 實監修、『東京美術学校の歴史』、日本文教出版、1977、pp.263-264
- ・ 美術研究所著、『日本美術年鑑 昭和十一年版』、図書刊行会、1936、p.6
- ・ 「買える真剣さー二科展の彫塑ー」、『読売新聞』、1936、p.5
- ・ 恵光院白編、『美術家索引 日本・東洋編』、日外アソシエーツ、1991、p.538・815・882